

住まいと健康 フォーラムニュース

発行者：住まいと健康フォーラム事務局 第46号
〒108-8638 東京都港区白金台4-6-1 国立保健医療科学院 建築衛生部 '04.4.29.
Tel 03-3441-7379 (鈴木) 3441-7391 (阪東) FAX 03-3446-4723

2004年『住まいと健康フォーラム』 総会及び全国フォーラム開催のお知らせ

日時 2004年7月16日(金)
総会 午後1時30分～2時
全国フォーラム 午後2時～5時

場所 国立保健医療科学院 白金台校舎
(旧 国立公衆衛生院：東京都港区白金台4-6-1)

テーマ(予定)

- ① 「住まいと健康」をめぐる厚生労働省の最近の動き
- ② 健康に生きるための住まい — 過去・現在・未来

詳しいお知らせは後日行う予定です。皆さんの多数のご参加をお願いいたします。なお、会員以外の方の参加も歓迎します。周囲の方にお知らせして、ご参加ください。

白金台の校舎を使用するフォーラム最後の大きな行事になる予定です。白金台校舎には思い出がある方も多いと思います。ぜひお誘い合わせてお越しください。

※本企画は「住まいと健康フォーラム」の主催するものですので、お問い合わせ等は、国立保健医療科学院ではなく、「住まいと健康フォーラム」事務局(鈴木 宛)にお願いします。

Tel 03-3441-7379 (鈴木) 03-3441-7391 (阪東)

FAX 03-3446-4723 なるべくFAXでご連絡ください。

北九州住まいと健康研究会の報告

「北九州住まいと健康研究会」

北九州市立食肉センター

小橋 清

グループの紹介

久しぶりに「北九州住まいと健康研究会」の活動状況を報告します。

「北九州住まいと健康研究会」は、行政の環境衛生業務の推進を図る活動及び地域活動との連携・協働を目標とする活動を目指しています。

活動当初、当面の目標として作成した「住まいと健康相談ガイドブック」は保健所や区役所窓口で活用されていますが、市民からの窓口相談件数は年間10件程度です。

現職の公務を本業としながらの自主活動なので、環境衛生行政の一環としての活動には限界が生じます。異動しても継続できる、学習、情報発信と共有、地域との連携を柱とした幅広い視点に立った活動として継続する傾向になっております。

学習では、学会は勿論、地域で開催される「住」に関する勉強会、講演会、イベントなどには出来る限り参加しています。そして、仲間や保健所生活衛生課職員に学会情報の外、住まいと健康フォーラムニュース、雑誌や文献、新聞記事、法律改正などの新情報を通信紙、FAX、Eメールなど発信し、情報を共有しようと努めています。

地域で活動する団体や人々との連携

グループ活動を開始した平成7年頃、北九州にはマンション学会員の神埼氏が理事長をされている福岡県マンション管理組合連合会、弁護士会員の多いマンション問題研究会があり、一方、建築部局と連携している住宅リフォームセンター、住宅管理センターがありました。また、福岡市にはハビタットの活動がありました。

京都の住情報拠点センター「ハウメッセ京都」を視察後、仲間や神埼氏などと「九州ではもっと発展させた、『地域住民とNPO、業界、行政が協働する場づくり』としての住情報拠点センターの建設を目指そう」と話し合ったものです。

また、県内の建築・産業衛生・家政関係の大学には、住宅問題に関心が高く、講演会での講師に止まらず、木材住宅支援、九州住宅会議活動、ホームレス支援活動など大学内外で活動する教官もいます。近年は、1民間会社や数社によるグループ活動も盛んになっています。便器で有名になったTOTO、「匠の会」などがあり、大分学会で事例報告をお願いしたバリアフリーや福祉住宅に熱心な設計士がいます。医療対応型高齢者福祉マンションなどで福祉行政との協働を目指している会社も精力的に取り組んでいます。

若松区長の私的研究機関「次世代住宅システム研究会」の発足に当たっては当会から多くの資料や「北九州市内の住まいと健康人材リスト」などの情報提供を行いました。

区長は、我々以上に参加者を呼び込める「人脈」、「立場」、「予算」を持っており、土曜日の午後の例会には毎回、産業医科大学教授、小児科・呼吸器科医師、市議会議員、住宅産業、設計事務所など50名程度が参加し、住宅問題全般について研究しました。

この場でも「住まいと健康研究会」をPRし、多くの仲間と出会いました。

このほか、障害者地域生活支援研究会、福岡県環境教育学会などもあり、住まいと健康問題に関わりのある活動を実施しています。

これら多くの団体などが主催または後援する学習会や事業に参加しつつ、いつの日にかの協働活動の実施に向けて地域のネットワークを拡大し、強化させています。

NPO法の施行後は、NPO化が進み、「マンション管理センター」、「九州住情報センター」の活動が発足しました。近年、これらNPO、業界グループの活動が活発となり、我々公務員の影が薄くなっています。それが本来あるべき姿だとも感じています。

最近の出来事の紹介

1 「西日本アレルギー看護研究会」に参加：

例年8月に開催している「西日本アレルギー看護研究会」に参加した。

主な会員は、看護師、栄養士で京阪神から沖縄まで例年200名ほどが参集する。

長年勤務した九州厚生年金病院の難治アトピー・小児アレルギー科から独立され「おかべアレルギークリニック」を開院された岡部先生は「除去食療養児の母親アンケート」、「自家製看護マニュアルによるアトピー治療」を発表された。現在のアレルギー学会長である岐阜大学の永井先生は、「アレルギーの薬はこれからどうなるか？」のテーマで自身が研究開発している新薬など興味深い講演をされた。東佐賀病院はサマーキャンプの現状を発表したが、何れの病院でも患者の参加者が減少し、ボランティアは増加しているそうである。

南福岡病院の岸川先生は「花粉症」について解説した。

彼女は院内の杉花粉&全国ネット情報を集約し、全国的な花粉情報の発信源である。

シックハウス対策入院室は南福岡病院、相模原病院、北里大学にしかないが、今回は患者が入室しており見学できなかった。埃が貯まらない構造、大理石・ヒノキなど建材対策、テレビを隣室に置きガラス越しに観る電磁波対策などに留意している。

2 保健所技術研修会開催：

平成15年10月17日、保健所の技術研修を担当している健康増進課と連絡をとり、「住まいと健康」をテーマとした研修を実施した。環境衛生監視員、医師、保健師、栄養士、事務職など幅広い職員100名以上が参加した初めての研修会であった。

講師には、アレルギー学会の重鎮である国立療養所南福岡病院院長の西間三馨先生にお願いし、「アレルギーと生活環境」のテーマで講演していただいた。先生は「西日本アレルギー看護研究会」を主宰し、学会活動のほか厚生労働省等の各種委員や研究班指導者として参画され、国内有数のアレルギー&花粉症研究者である。著書300冊、共著600冊に及ぶ教育普及活動にも熱心で、研修会の講師も快く受諾していただいた。

当日の講演の項目は、アレルギー&アトピーの語義と歴史・分類、国内研究の歴史、アレルギー増加の背景、花粉症、シックハウス症候群・化学物質過敏症・環境不耐症、アナフィラキシー（概論、エピネフリン（ボスミン）注射、米国の初期救急・学校対応、国内対応提言）、アトピー性皮膚炎と食物アレルギー、食物アレルギーの原因食品と盛りだくさんの内容で、質疑応答を含めて3時間に及ぶ大熱演の講演となった。

講演の中で印象深かったのは、① アレルギー疾患増加の要因は、住環境の変化以外に食生活の変化、精神環境の変化、地球環境の悪化など多彩で、ISAAC（アイザック：国際共同疫学調査）が調査研究している。② 毎年、2月から2ヶ月間発信される「花粉情報」は南福岡病院が発信源である。③ 食物アレルギーを含め「アナフィラキシー」は深刻な問題である。個人療法導入を検討すべきである。（朝日新聞に「アナフィラキシー発生時にエピネフリン注射を導入すべき」との見解を投稿）の3点であった。④ 4月からの独立行政法人化による採算性重視の影響が心配だ。

3 「西日本トータルリビングショー」の主催者から当会に案内があり、3月20日に参加した。九州住情報センター、北九州市すこやか住宅推進協議会のメンバーなどと交流を深めた。輸入住宅建材のPRは熱がこもっていた。

4 環境先進都市を標榜している北九州市は、エコタウンを創造し、学術研究都市に多くの大学を誘致した。この中で、早稲田大学理工学総合研究センターは、中国・韓国の住宅市場を睨みつつ「完全リサイクル住宅」の実証センターを開始させた。

投稿者連絡先：802-0012 北九州市小倉北区末広2-3-7

北九州市立食肉センター

TEL: 093-521-0172

FAX: 093-551-7855

E-mail kiyoshi_kobashi01@mail2.city.kitakyushu.jp

北九州市保健福祉局生活衛生課ホームページアドレス

<http://www.city.kitakyushu.jp/~k230403a/work.htm>

書籍紹介

『「水」の安心生活術』

文京保健所 中臣 昌広 さん 集英社新書 ￥660+税

「住まいと健康フォーラム」の会員でもある、東京都文京区の文京保健所の中臣 昌広さんが、集英社新書から本を出されました。

「水」の安心生活術と題された本は、実に分かりやすく水と都市生活の関わりを、語り尽くしていきます。

中臣さんは環境衛生監視員として、1981年から保健所で活躍しています。「住まいと健康フォーラム」の他に、特別区職員自主研究グループ「ソーラーシステム研究グループ」に参加し、雨水利用などの実践に力を尽くしています。

今回の本では、保健所で実際に取り組んだ事例もふんだんに盛り込まれています。また、飲み水だけでなくプールや温泉、また、環境衛生監視員として見逃せない話題の結露やダニの問題などにも話題を広げています。

文体もていねいで、一気に最後まで読ませる筆力も驚かされます。

環境衛生監視員としては、ぜひ手元に置いておきたい1冊と言えるでしょう。

また「住まいと健康フォーラム」の会員の方や、公衆衛生従事者の方には、環境衛生監視員ってこんな仕事や問題意識を持っているんだということを理解していただくためにも、ぜひ目を通していただきたい本です。

新書版で手軽に読めることもいいですね。絶対にお勧めの本です。

最後に著者のコメントを添えます。ぜひご一読ください。

「環境衛生監視員のみなさんへ。この本は、いちばんは主婦のみなさんに読んでいただきたいものですが、読んでもっとも役に立つのが現場の環境衛生監視員のみなさんだと思います。全国の環境衛生監視員の仲間にむけて、『きびしい時代だが、元気を出していこう』というメッセージをこめて書いた本でもあります。

また、この本をとおして、市民の多くの方々に、環境衛生監視員の存在を知ってほしいと願っています。そのために、少しでも多くの方にこの本が読まれてほしいと思います。みなさんのご支援を、お願いいたします」

事務局だより

フォーラムニュースでは原稿を募集しています。各地での住まいと健康に関する取り組みについて、ご報告ください。どちらかに発表した原稿の転載でも結構です。会員の双方向の情報交換がフォーラムの重要な役割です。皆さんのご協力をお願いいたします。

事務局

〒108-8638

東京都港区白金台4-6-1

国立保健医療科学院 建築衛生部 健康住宅室 鈴木 晃 ・ 阪東美智子

TEL 03-3441-7379 (鈴木) FAX 03-3446-4723

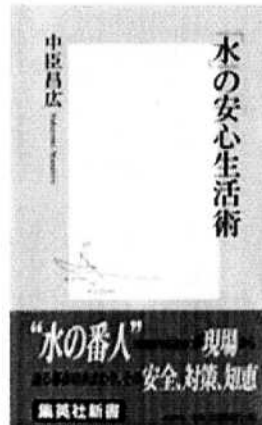
★事務局不在のことが多いので、ご連絡はなるべく FAX でお願いします。

“水の番人”＝現役の環境衛生監視員が

「水」最前線の現場から

水まわりの知恵を綴った！

「水」の安心生活術



中臣昌広著 集英社新書 ISBN08-720235-6 定価 693 円 **本体 660 円**

(文京区文京保健所)

市民の健康と衛生を文字通り「水際で」守っているのが、保健所の環境衛生監視員。東京都特別区で現役監視員をつとめる著者が、その豊富な実体験を振り返りながら、水と衛生に関する知恵を平易なことばで綴ります。飲み水の汚染事故の実態とその対応、おいしい水の条件、家を買うときに注意すべき水まわりのこと、プールの水、お風呂、温泉の水の話、湿気やダニ、カビ対策に至るまで、市民生活の「衛生最前線」がいきいきと伝わってきます。ふだん何気なく利用している都市生活の「水」の多様な姿を知ることのできる1冊です。

著者コメント

「環境衛生監視員のみなさんへ。この本は、いちばんは主婦のみなさんに読んでいただきたいものですが、読んでもっとも役に立つのが現場の環境衛生監視員のみなさんだと思います。全国の環境衛生監視員の仲間に向けて、『きびしい時代だが、元気を出していこう』というメッセージをこめて書いた本でもあります。

また、この本をとおして、市民の多くの方々に、環境衛生監視員の存在を知ってほしいと願っています。そのために、少しでも多くの方にこの本が読まれてほしいと思います。みなさんのご支援を、お願いいたします」

中臣昌広 (なかとみ まさひろ) 1958年東京都生まれ、保健所環境衛生監視員。上智大学理工学部化学科卒業。

81年東京都荒川区荒川保健所に環境衛生監視員として就職。84年より特別区職員自主研究グループ「ソーラーシステム研究グループ」に参加。95年より市民団体「雨水市民の会」会員。共著書に『循環都市へのこころみ』(ソーラーシステム研究グループ著 NHKブックス)、『雨の建築学』(日本建築学会編著 北斗出版)がある。

☆この本に関するお問い合わせは下記へお願いします。

〒101-8050 東京都千代田区猿樂町1-5-14 (株)集英社 新書編集部 担当：菊池治男

電話 03-3230-6391 FAX03-3221-4852